

北欧伝統音楽シーンでもっともクールでかっこいいバンド

スウェーデンの伝統楽器ニッケルハルパ、ヴィオラ、そして12弦ギターが絶妙にからみあい、一つの音の生命体となってうねるように突進していく様は、唯一無二の音楽体験と言えるだろう。

多くの音楽家が、彼らこそ世界一のバンドだ、と賞賛の声を寄せる。

今年はバンド結成25周年を迎え、ますますその演奏に円熟味がまし、絶好調のヴェーセン!

プロフィール

1989年結成。「ヴェーセン」とはスウェーデン語でひらめき、スピリット、ノイズ、生物、エッセンスを意味する。メンバーはウーロフ・ヨハンソン(ニッケルハルパ)、ミカエル・マリーン(ヴィオラ)、ローゲル・タルロート(ギター)の3人。

97年に発表した「ヴェルデンス・ヴェーセン」でスウェーデンのグラミー賞を獲得。一躍シーンのトップに躍り出る。同年アメリカでのCDデビューが決定し、以降、コンスタントにアメリカでツアーを重ねるようになる。2004年、初の来日ツアーを実現。当時はまだ北欧の伝統音楽のグループが来日することは珍しかったので、ケルト系やその他ヨーロッパ系の単純な構造のアコースティックアンサンブルとは、まるで一線を画す、柔軟で新しいヴェーセンの音楽は、たちまち多くのファンを虜にするようになる。2005年、2度目の来日公演を収録した「ライブ・イン・ジャパン」を全世界でリリース。2006年、日本の無印良品のBGM8のために楽曲を提供。2009年にはバンド結成20周年を記念して、アメリカのブルーグラス界のマエストロ、マイク・マーシャル(マンドリン)とダロル・アンガー(フィドル)などをゲストに迎えて制作された「ヴェーセン・ストリート」をリリース。2013年に作られた「マインドセット」は2014年の来日記念盤として、10月19日に日本リリースされる。

現在までに10枚のオリジナル・アルバム、3枚のライブアルバムをリリースし、向かうところ敵なしのヴェーセン。日本では2004年の初来日から10年、8回の来日が決定し、日本でもっとも人気のある伝統音楽グループとして、その地位を確固たるものにしていく。アメリカではマルチ・グラミー受賞者のクリス・シーリが、自身のバンドでヴェーセンの楽曲をカバーするなど、これからの活躍がますます注目される。



◎ニッケルハルパ Nyckelharpa

スウェーデンの伝統楽器。英語では Keyed fiddle と呼ばれ、その名のとおりネックの下につけられたキーを持ち上げるようにして音階を決定する。実際に演奏する弦は4本程度で、ヴァイオリンに音色が似ているが、共鳴弦が多く教会で弾いているような自然な残響感がある。楽器分類学上はハーディ・ガーディとともに機械楽器に分類される。